

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

分担研究報告書

沖縄県における成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究

沖縄県における成人の侵襲性細菌感染症のサーベイランス

研究分担者 仲松 正司 琉球大学大学院 医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座

【研究要旨】侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）、侵襲性インフルエンザ菌感染症（IHD）、侵襲性髄膜炎菌感染症（IMD）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）の沖縄県内での発生動向を解析するとともに、沖縄県全体でのサーベイランス体制を維持・強化し、今後の感染症対策に備える。2025年度はIPD・IHDで届出数が顕著に増加し、IPDではPCV21で約70%、PCV20およびPPSV23で約55%のワクチンカバー率であった。IHDは2016年以降過去最多の31例届出となり、ほぼ全例が無莢膜型であった。

A. 研究目的

沖縄県は日本最西端に位置する亜熱帯気候の県である。アジアの玄関口として台湾や中国をはじめとした東アジア、東南アジアの国々との交流が活発である一方、米軍基地が存在するなど日本本土とは気候や環境が異なる。そのため感染症においては菌種や流行パターンが日本本土とは異なることが予想される。本研究では感染症法に基づく届出を元に、侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）、侵襲性インフルエンザ菌感染症（IHD）、侵襲性髄膜炎菌感染症（IMD）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）の沖縄県内での発生動向を解析するとともに、県内の人的ネットワークを維持・強化し、今後の感染症対策に役立てることが目的である。

B. 研究方法

微生物検査室を有する県内15医療機関の医師と微生物検査技師、沖縄県衛生環境研究所、沖縄県感染症対策課（保健医療介護部）の間で、サーベイランスのためのネットワークを継続的に運用している。各施設の協力のもとに4疾患の菌株および調査票を収集し、解析を行う。NESID届出情報は沖縄県感染症対策課からExcelで共有を受け、関係機関との間で定期的にメール連絡を行っている。解析結果は定期的に各医療機関や行政にフィードバックする。

（倫理面への配慮）

症例調査に関しては匿名化を図り、患者のプライバシーが守れるように配慮する。菌株の収集に関しては倫理的な問題はないと判断する。

C. 研究結果

(IPD) 2025 年の NESID 届出数は 98 件で、2024 年 (84 件) から大きく増加した。研究班解析株は 24 株であった。莢膜血清型では 19A および 38 の増加が認められた。2025 年分離株のワクチンカバー率は PCV21 で約 70%、PCV20 および PPSV23 で約 55%であった。薬剤感受性ではペニシリン非感受性株 (19A、23F、19F、15A、6B など)、カルバペネム (メロペネム) 非感受性株 (15A、35B、19A など) が一定数認められ、注意を要する状況であった。病型は菌血症が最多で、次いで肺炎、髄膜炎の順であった。

(IHD) 2025 年の NESID 届出数は 31 件で、2016 年以降過去最多であった。研究班解析株は 15 株であった。病型は菌血症と肺炎が中心で、子宮内感染が 2 例認められた。血清莢膜型は累積では 94 例が無莢膜型 (non-typable) であり、2025 年も同様の傾向が続いた。

(STSS) 2025 年の NESID 届出数は 15 件で、2024 年の 47 件から大きく減少し、概ね平年並みとなった。研究班解析株は 9 株であった。臨床像は蜂窩織炎と腎不全が多く認められ、壊死性筋膜炎、肺炎・肺化膿症も継続的に認められた。血清群では A 群、B 群、G 群の混在が継続している。

(IMD) 2025 年の NESID 届出数は 3 件、研究班解析株は 2 株で、血清群は B および Y であった。

D. 考察

2025 年度は IPD および IHD の届出数が顕著に増加した点が特徴的である。IPD では NESID 届出が前年比で大きく増加し、莢膜血清型では従来から多かった 15A、35B に加え、19A および 38 が増加していた。19A はペニシリンやカルバペネムに低感受性を示すことが多く、引き続き耐性動向の注視が必要である。新たに導入された PCV21 のワクチンカバー率は約 70%であり、今後のワクチン政策の検討において重要な参考データとなる。IHD は 2016 年以降過去最多の届出数を記録した。莢膜型はほぼ全例が無莢膜型である。STSS は前年の急増から平年水準に復したものの、蜂窩織炎・腎不全を呈する重症例は引き続き一定数認められており、継続的な動向把握が必要である。IMD は届出・解析ともに継続しており、血清群 Y・B の混在が認められている。サーベイランス体制面では、2024 年度に再構築した沖縄県・衛生環境研究所・沖縄県感染症対策課との連携体制を 2025 年度も維持・運用し、NESID 届出情報の Excel 共有および定期的なメール連絡が機能している。

E. 結論

2025 年度は沖縄県内で 2024 年度に再整備したサーベイランス体制を維持・運用し、4 疾患の発生動向解析と関係機関へのフィードバックを継続した。IPD では届出数増加と血清型 19A・38 の台頭、PCV21 の高カバー率、IHD では過去最多の届出数といった重要な変化が観察された。今後とも本サーベイランスを継続し、ワクチン政策および耐性菌対策への基礎情報を提供していく。

F. 健康危険情報

該当なし (分担研究報告書には記入せず、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし
2. 学会発表 該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし